

編輯後記

□「しきしまの大和心のをしさはことある時ぞあらはれにける」と 明治天皇が御製に仰せられた通り、この大東亞戰爭に當つて比類無き日本精神が炳乎として顯揚せられ、凱歌につぐ凱歌と同時に、國策の根本たる大東亞建設は愈々高らかに奏でられてゐる。「御民われ生けるしるしあり……」と岡麻呂の絶叫したやうに、予等も先づ人として生れしを悦び、わけても此の國土に際會したことを心から悦ぶ。

□新文化流布建設の觀點から農山漁村文化協會に依つて瑞穂劇團が生まれ、陸軍省報道部その他の後援に依つて南方藝能協會が公演の運びに至つた。なほ民間に在つても長谷川伸氏等の文藝陣を背景とした劇團中央舞臺が新生し、他方に文學座、藝術座、舞臺座等が試演や勉強會を續々開催してゐるのは、國民演劇の進展として悦ばしい次第である。

□情報局制定の國民演劇賞が左の新作八種に授與された。

海國兵談(永田衡吉) 春の霜(宇野信夫)

赤道(八木隆一郎) 山參道(眞船豊) 若き日の山陽(藤森成吉) 午前二時の板木(金子洋文) 隻手に生ける(小川眞吉、神崎武雄) かくれんぼう(曾我廼家五郎)

□歌舞伎檢討委員會第二回歌舞伎脚本募集は三月末日締切までに千五百餘種の応募があつたといふ。その成果を報告する。

□日本演劇協會劇作部は特別攻撃隊劇化を企畫、四作家を選抜して同一題材に向ひ執筆を依頼し、五月海軍記念日に發表の豫定の由。

□大阪市役所文化課の後援で大阪市文化紙芝居研究會が創立され、四月上旬發會式が舉げられる筈。

□本誌同人會を三月二十四日北濱の網彦に開催、今後の方針、經營編輯に就いて検討し新に左の七氏を同人に推薦、それゝ承諾を得たので今後順次その研究發表によつて紙上を飾つて頂くこととなつた、御期待を乞ふ。

吉永孝雄、辻部政太郎、中西信太郎、梅本重信、野間光辰、齋藤清二郎、祐川善雄諸氏 (編輯部 林、大西、森)

淨瑠璃雜誌 第四百八號

(昭和十七年四月號)
(毎月一回三十日發行)

定價 本 一 部 金五十錢
半 部 金三十錢
十二冊 金五圓

○御注文は一切前金の事

○雜誌發送を以て領收證に代ゆ

○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す

○振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。

○座内販二二九二八番

廣 告 料

普通	一行	金三十錢
一等	一行	金二十圓
二等	一行	金二十圓
特等	一行	金三十圓
○特等は	一頁以下の需に應ぜず六回	
○以上の	特約には割引す	
○製版を	要する時は其費を申受く	
○廣告料	は總て前金の事	
○一行	九ポイント活字	

大阪市西區西本通二ノ三三

編輯人 樋口 虎之助

印刷人 坂口 秀吉

印刷所 高尾印刷所

發行所 淨瑠璃雜誌社